

EP_002 ■奏でられた音色（11分00秒以上）

教室	【状況説明】（1分20秒） 放課後、一緒に帰ろうとヒロユキとトモキがケンジのもとにやってくる。		
	001	・教室の戸が開いて、トモキとヒロユキがケンジのもとにやってくる ●悩んでいるように	ケンジ 「ん～」
	002	●「あーそーぼ」みたいな感じで	ヒロユキ 「一緒にかーえーろっ。……ってあれ？ケンちゃん何やってんの？」
	003	・2人に気づくケンジ	ケンジ 「ああ、ヒロユキとトモキか」
	004		トモキ 「居残り？」
	005	●面倒くさそうに	ケンジ 「いや、今度クラス対抗で球技大会があるだろ？そのためにみんな練習したいだろうから、ケンカにならないように体育館の割り振りを考えてんだよ」
	006		トモキ 「なんでケンジがそんなことやってんの？生徒会でもあるまいし」
	007		ケンジ 「生徒会だよ！」

教室	008	・レイカが教室に入ってくる	レイカ	「あれ、増えてる」
	009	●「発見！」という感じで	ヒロユキ	「あ、れーたんだ」
	010		レイカ	「ケンジ、終わった？」
	011	●納得はいてないという風に	ケンジ	「うん。完全に平等に振り分けられなかったけど、まあ、一応な。しょうがないから3年生を優先にしといた」
	012		レイカ	「まーしょうがないね。体育館は1つしかないし」
	013	●真面目に	ケンジ	「うん。下級生には今度の全校集会で俺から説明しておくよ」
	014		レイカ	「わかった」
	015		ヒロユキ	「……なんか、ケンちゃんって完璧主義なところがあるよね」
	016		ケンジ	「は？」
	017	●考えながら	トモキ	「あー……それ、分かるかも」
018		ケンジ	「なんだよ2人とも」	

教室	019		トモキ	「だってさあ、この前だって……」
		—回想— (0分30秒)		
	020	・本屋にきたトモキとケンジ	トモキ	「何買うの？」
	021	●本を探しながら	ケンジ	「小説だよ」
	022		トモキ	「エッチな？」
	023	●必死に否定	ケンジ	「ちげーよ！推理小説だよ！」
	024	●つままないという感じで	トモキ	「なーんだ」
	025		ケンジ	「お、あったあった」
	026	・重なってる下のほうから本をとるケンジ	トモキ	「え、何してんの？」
	027	●笑顔で	ケンジ	「いや、一番上は立ち読みとかしてあって汚れてるだろ？だから下から取ってるんだよ」
	028	●軽蔑する目で	トモキ	「……うわあ」
		—回想終わり— (0分15秒)		
029	●思い出しながら	トモキ	「……とかね」	

教室	030	●ちょっと焦りながら	ケンジ	「悪いか！」
	031		レイカ	「言われてみれば、確かに、完璧主義……っていうか潔癖症かもね。ほら、昨日も……」
		—回想— (0分30秒)		
	032	・休み時間	レイカ	「ねえ、修正ペン貸して」
	033		ケンジ	「いいよ。ほら」
	034	・受け取る	レイカ	「ありがとう」
	035	・使い終わって、ケンジに返すレイカ	レイカ	「はい」
	036	・受け取ってキャップをはずしてペン先をティッシュでふくケンジ	ケンジ	「おう」
	037		レイカ	「……何してんの？」
	038	●笑顔で	ケンジ	「ん？ほら、修正ペンってペン先が汚れやすいだろ？だからティッシュでふいてるんだよ。見りゃわかるだろ？」
039	●引きつった顔で	レイカ	「あ……そう」	

教室		—回想終わり— (0分50秒)		
	040	●思い出しながら	レイカ	「……とかね」
	041	●ご愁傷さまという感じで	ヒロユキ	「あー、やっぱりケンちゃんって潔癖症だよ。重度だよ、重度」
	042		ケンジ	「そ、そんなことは」
	043		トモキ	「あると思う」
	044	●戸惑って	ケンジ	「いや、ほら、お前らだって黒板に書いた先生の字が下に行くにつれて曲がっていたら、気になって授業に集中できないだろ？」
	045		ヒロユキ	「それはない」
	046	●三人同時に	レイカ	「それはない」
	047	●無愛想に言う	トモキ	「それはない」
	048	●さらに戸惑って	ケンジ	「うっ……。じ、じゃあ、あれだ！携帯の画面を指紋だらけにしてる人とか信じられくないか？」
049		トモキ	「本人が気にしてないんだったら別にいいじゃん」	

教室	050	●困った顔で	ケンジ	「いや、確かにそうだけど……」
	051		レイカ	「やっぱりケンジは神経質だね」
	052	●あーあって感じで	ヒロユキ	「うん。完璧に墓穴掘ってるし」
	053	●誤魔化す感じで ・1人で教室を出ていくケンジ	ケンジ	「あーもう！帰るぞ！」
	054	・後を追いかけて教室を出るヒロユキ	ヒロユキ	「あ、ケンちゃん待って」
	055	・間をおいてから	トモキ	「逃げられたね」
	056	●笑顔で	レイカ	「そうだね」
<p>【場所移動・時間経過】(0分45秒)</p> <p>次の休日、ヒロユキはトモキを連れてケンジを尾行していた。</p>				
街角	057	●小声で	ヒロユキ	「という訳でトモっち隊長。準備が整いました」
	058	●トモキは普通の声で、興味なさそうにローテンション	トモキ	「いや、頼んでないし。つーか何で俺が隊長？」
	059	●ここもヒロユキは小声で	ヒロユキ	「トモっち隊長、声大きい！ケンジ容疑者に逃げられてしまいますよ！」

街角	060	●ため息ではなく、「あ、そうですか」的に	トモキ	「はあ……」
	061	・ここからはどちらも普通の声で話す	ヒロユキ	「トモっちはケンちゃんが潔癖症で神経質かどうか興味ないの？」
	062		トモキ	「いや、特には」
	063	●話をさえぎって	ヒロユキ	「おっとトモっち隊長！容疑者が本屋に入っていました。何をかうんでしょうねえ」
	064	●興味なさそうに	トモキ	「そりゃあ本でしょ」
	065		ヒロユキ	「隊長、追跡しましょう」
	066		トモキ	「ま、いっか。面白そうだし」
<p>【場所移動】（3分40秒）</p> <p>ヒロユキとトモキは、ケンジの入った本屋の中に入って行く。そして影からケンジを見張っている。</p>				
本屋	067	●実況風に	ヒロユキ	「小説コーナーに入っていましたよ」
	068	・立ち読みしているトモキ	トモキ	「ふーん」
	069		ヒロユキ	「ふーん、ってトモっち！何立ち読みしてんの！」
	070		トモキ	「何って……ジャンプ？ほら俺、今週読んでなかったし」

本屋	071		ヒロユキ	「そんな事情知らないし！もう、ちゃんとトモっちも見張っててよね」
	072	●やる気なさそうに	トモキ	「はい」
		—間—		
	073	●本を探しながら	ケンジ	「えーと……あ、これこれ」
	074	●ケンジを見ながら	ヒロユキ	「トモっち隊長、ケンジに動きがありましたよ？棚にある本だと、噂に聞く妙技『下から取る裏ワザ』が使えなくなりますが、いったいどうするんでしょうねえ」
	075	・トモキから反応がない	ヒロユキ	「トモっち隊長？って、またかよ！」
	076		トモキ	「ん？ああ、ほら俺、今週のミュージックスタイル読んでなかったし」
	077		ヒロユキ	「いったい何しに来たんだよ！」
	078		トモキ	「だって本屋じゃん」
	079		ヒロユキ	「確かに本屋だけど、今はケンちゃんが潔癖症で神経質かどうか調べてる最中でしょ！？」
080	●怒りを堪えながら登場	ケンジ	「誰が潔癖症で神経質だって？」	

本屋	081	●驚いて	ヒロユキ	「うわああっ！」
	082		トモキ	「うわあっ」
	083		ケンジ	「2人してこんなところで何してんだよ」
	084	●慌てているように	ヒロユキ	「え？……あー、散歩？」
	085		ケンジ	「んなわけねーだろ！」
	086	●自分は関係ないかのように	トモキ	「なんか、ケンジが本当に潔癖症で神経質かどうか確かめるんだってさ」
	087	●「なんで言うの？」的に	ヒロユキ	「トモっち〜」
	088	●怒りを堪えながら ・手をパキパキさせるケンジ	ケンジ	「ほ〜う、何か楽しそうなことやってますねーヒロユキくん？」
	089	・ケンジが殴りかかろうとしている	ヒロユキ	「え、ちょっと？うわあああっ！」
		—ヒロユキがケンジに殴られ、間—		
街角	090	●テンション低く ・正座させられて謝る2人	ヒロユキ	「ごめんなさい」
	091		トモキ	「ごめんなさい」

街角	092		ケンジ	「ったく、お前らどんだけ暇なんだよ」
	093	●言い訳するように	ヒロユキ	「だってさあ、ケンちゃんがほんとに神経質なのか確かめたかったんだよ。もしかしたら俺らの勘違いかもしれないしさ」
	094		ケンジ	「だから言ってるだろ、勘違いだって」
	095		トモキ	「じゃあ、さっき買おうとしてた本、棚に1冊しかなかったみたいだけど、それ買うの？」
	096		ケンジ	「そんなもん、店員に倉庫から新しいの出してきてもらうに決まってんじゃない」
	097	●「やっちゃったよ、この人」的に	ヒロユキ	「……うわあ」
	098	●「ある意味すごいね」的に	トモキ	「……それが当たり前だと思ってるところが残念すぎるよね」
	099		ケンジ	「は？」
	100	●やる気なさそうに	ヒロユキ	「あ、もういいや。調査終了—」
	101		ケンジ	「なんなんだよ、なんかおかしいか？」
	102		トモキ	「さーて、帰りますか」

街角	103		ケンジ	「おい、ちょっと！」
	104		ヒロユキ	「俺、ケンちゃんのこと、嫌いになったりしないから」
	105		トモキ	「でも、その神経質なところもたまには役立ってるよね。ほら、ピアノとか」
	106	●意外そうに	ヒロユキ	「え？ケンちゃんってピアノ弾けたっけ？」
	107	●「何の話？」という感じで	ケンジ	「あ、まあ。少しだけ」
	108	●思い出すように	トモキ	「ヒロユキは小4の時に転校してきたから知らないかもしれないけど、そのころまではみんなの前でピアノの演奏を披露してたっけ。あのころは素直でかわいーケンジくんだったのにな」
	109		ケンジ	「今が素直じゃないような口ぶりだな」
	110	●期待するようにワクワクして	ヒロユキ	「え、ケンちゃんのピアノ聴きたい聴きたい！」
	111	●嫌そうに	ケンジ	「はずいからいーよ」
	112	●だだを捏ねるように	ヒロユキ	「えー、聴きたいー」
113		トモキ	「じゃあ、今からケンジの家に行こうか」	

街角	114		ケンジ	「は？」
	115	●とても喜んで	ヒロユキ	「ケンちゃんの家？行くー！」
	116		ケンジ	「おいちょっと何勝手に……」
	117		トモキ	「まあたまにはいいじゃありませんか。それともケンジは俺たちが家に行くと困るような何かがあるのかな？」
	118		ケンジ	「いや、ないけど……」
	119		ヒロユキ	「じゃあ、けってーい！」
	120	●とても張り切って	ヒロユキ	「それではケンちゃんの家へしゅっぱーつ！」
	121	●とても張り切って	ヒロユキ	「おーっ！」
	122	●声を高らかにしないで、平然と	トモキ	「おー」
<p>【場所移動】（1分10秒） 3人はケンジの家にやってきて、リビングに入る。</p>				
	123	●ちょっと驚きながら	ヒロユキ	「何これ。広すぎない？」
	124		ケンジ	「そうか？普通だろ」

ケンジの家・リビング	125		トモキ	「ケンジはお金持ちだから感覚がくるってるんだよ、ヒロユキ」
	126		ヒロユキ	「うわあ、ボンボンだ」
	127		ケンジ	「なんだよボンボンって！つーか別に金持ちじゃねーし」
	128	●諭すように	トモキ	「こーいう無自覚は、時に他人を傷つけますよ？」
	129	●泣きつくふりをして	ヒロユキ	「トモっちー、俺傷ついたー」
	130	●「ほらね」ということ	トモキ	「ほら」
	131		ケンジ	「ったく……はいはい、金持ちですよ」
	132		トモキ	「今度は自慢し始めましたか」
	133	●泣きつくふりをして	ヒロユキ	「トモっちー、俺もっと傷ついたー」
	134		ケンジ	「いったいどうすりゃいいんだよっ！！」
	135	●さらっと	トモキ	「じゃあ、このやり取り面倒くさくなったから、もうピアノ弾いていいよ」
	136	●怒りをこらえながら	ケンジ	「お前らなあ……」

ケンジの家・リビング	137		ヒロユキ	「わーい、ケンちゃんのピアノだー」
	138	●ため息交じりで	ケンジ	「……はあ、ピアノは俺の部屋にあるから」
	139	・走っていくヒロユキ	ヒロユキ	「じゃあケンちゃんの部屋に直行だーい」
	140	・間をおいてから	トモキ	「お疲れのようですね」
	141		ケンジ	「誰のせいだよ」
<p>【場所移動】（2分0秒） 3人はケンジの部屋に移動する。</p>				
ケンジの家ーケンジの部屋	142		ヒロユキ	「うわあ、グランドピアノだ」
	143	・ケンジはグランドピアノの椅子に座る	ケンジ	「曲はどうする？」
	144		トモキ	「任せるよ」
	145		ケンジ	「わかった。でも、下手くそだからって笑うなよ？」
	146	●ワクワクしながら	ヒロユキ	「笑わない笑わない」
	147	・ケンジは構える	ケンジ	「じゃあ、弾くぞ」
		—演奏開始。綺麗な曲を奏でる—		

ケンジの家 ーケンジの部屋	148	●呆気にとられて	ヒロユキ	「すごい……」
	149	・演奏が終盤に差し掛かる	ケンジナレ	「いつからか俺は、一人じゃなくなっていた。俺自身が変わったんだろうか。気づいたら周りにはこいつらがいて、それって当たり前のようで、実はすごいことなんじゃないかって、最近はそう思える」
	150	・演奏が終了する	ヒロユキ	「すごいすごい！ケンちゃんピアニストだよ！」
	151	●照れながら	ケンジ	「そうか？」
	152		トモキ	「さすが神経質なだけあるね」
	153		ケンジ	「誰が神経質だ」
	154	・フェードアウト (154 から 159 まで)	ヒロユキ	「そっか、神経質だからか」
	155		ケンジ	「だから、違うっての！」
	156		トモキ	「いや、神経質でしょ」
	157		ケンジ	「神経質じゃない」

	158		ヒロユキ	「まあまあ、いさぎよく認めなさい」
	159		ケンジ	「お前らなあ……！」
	160	<ul style="list-style-type: none"> ・フェードアウトしてるところにナレーション ●爽やかに、よく溜めて 	ケンジナレ	「だから、もっとみんなのことが知りたいと思ったんだ」
	<p>【追加分】 諸事情で台本に新たに加わったセリフ。</p>			
	201	<ul style="list-style-type: none"> ・EP_002の冒頭部ナレーション ●思い出すように、よく溜めて 	ケンジナレ	「昔、俺はひとりぼっちだった。いじめられてたとかじゃなくて、ただ、誰かと一緒にいるのが苦痛だったんだ」
	202	・タイトルコール	ケンジナレ	「奏でられた音色 ^{ねいろ} 」